

グループ名 ・代表者名	e シフト (脱原発・新しいエネルギー政策を実現する会) 吉田明子	助成金額	60 万円
連絡先など	yoshida@foejapan.org http://e-shift.org/		
助成のテーマ	脱原発を含むエネルギー・原子力政策実現に向けた政策提言と社会ムーブメントづくり		

### 【調査研究・研修の概要】

eシフト (脱原発・新しいエネルギー政策を実現する会) は、3.11後に発足したネットワークで、環境団体や市民団体、消費者団体など幅広い種類の団体や個人が、脱原発と被災者救済を目的に集まっている点が特徴です。月1回の会合やメーリングリストでの意見交換をベースに、団体を越えた協働や結集が必要な場面で、勉強会やアクション等を企画・実施しています。2013年度は特に、政権交代と原子力・エネルギー政策方針転換を受けて、国民の声の再度の可視化と新しい層の巻き込み、および脱原発運動のネットワーク強化を目指して活動しました。

### 【調査研究・研修の経過】

- ・原発ゼロノミクス・シンポジウム「脱原発のコストと経済性」(2013/4/16)
- ・原発ゼロノミクス・シンポジウム「東電解体と賠償問題」(2013/5/23)
- ・院内集会「どうなる電気事業法改正」(2013/6/20)
- ・ブックレット vol.4「原発ゼロノミクス 脱原発社会のグランドデザイン」刊行(2013/7/10)
- ・福島第一原発・汚染水問題に関する国際アクション(2013/8)
- ・原発ゼロノミクス「改めて考える原発のコスト」金子勝さん講演会(2013/9/10)
- ・原発ゼロノミクス in 京都「再生可能エネルギー普及への道を切りひらこう！」(2013/10/27)
- ・シンポジウム「どう計算しても原発は高い～地域から始める原発ゼロノミクス」開催(2013/11/16)
- ・エネルギー基本計画・パブコメアクション(2013/12/16～2014/1/6)
- ・院内集会「原発帰帰でいいの?! エネルギー基本計画に各界から異論」(2014/2/21)
- ・「脱原発・自然エネルギー推進自治体 Map」を公開(2014/2/21)



### 【今後の展望など】

- ・eシフトブックレット Vol.5『原発事故子ども・被災者支援法と避難の権利』刊行とセミナー開催。(実施済)
- ・シンポジウム「原発は温暖化対策にならない」7月末ごろ予定。
- ・原子力市民委員会との協力、イベントの共同開催等。
- ・eシフトブックレット Vol.6 の企画・準備。

会計報告書の概要 (金額単位: 千円)			充当した資金の内訳		
支出費目	内 訳	支出金額	高木基金の助成金を充当	他の助成金等を充当	自己資金
旅費	講師・ゲスト旅費、スタッフ・ボランティア交通費	251,820	100,000	0	151,820
機材・備品費	グッズ制作費ほか	65,793	0	0	65,793
会議費	会議室、イベント会場費、イベント参加・出展等	122,300	95,800	0	26,500
印刷費	会議資料・イベント案内等、キャンペーンチラシ	348,185	150,000	0	198,185
協力者謝礼など	講師謝金・原稿料	136,137	50,000	0	139,563
外部委託費	デザイン費・編集謝金等	189,563	50,000	0	139,563
その他	事務局運営費・事務局経費・荷造り運賃等	599,665	154,200	0	445,465
合 計		1,713,463	600,000	0	1,113,463

### 参考文献 (ウェブサイトや書籍、成果物など)

- ・金子勝(著)、飯田哲也(著)、eシフト(編)『原発ゼロノミクス：脱原発社会のグランドデザイン』、eシフトブックレット vol.4、合同出版、2013年7月。



## eシフト(脱原発・新しいエネルギー政策を実現する会)

2011年3月11日の福島第一原発事故を契機に、脱原発と自然エネルギーを中心とした持続可能なエネルギー政策を実現させることを決意した、団体・個人の集まりです。

- 1「事故被害の最小化」と「責任所在の明確化」
  - 2「脱原発と持続可能なエネルギー政策に向けた政策提言づくり」と「その実現」
  - 3「市民への有益な情報発信」と「社会的ムーブメントの巻き起こし」
- の3つの分野で活動を展開しています。

さまざまな団体の立場の違いを乗り越え、お互いの長所を活かしながら、本当に豊かで安心できる持続可能な社会を作るための大きなうねりとなっていくことを目指しています。固定的な組織体ではなく、緩やかなネットワークによる活動母体として機能しています。

<http://e-shift.org>

### 活動内容

#### 政府の政策分析・提言・ロビー活動

#### 関係自治体や団体との連携・調査分析等

- ・声明、セミナー開催、ロビー活動

#### 研究者との連携・共同アクション

- ・原発ゼロノミクス、東電問題、再稼働問題など

#### 様々な主体間の共有・連携(全体会合、MLを通じて)

- ・月1回程度都内で開催、各回20~30名程度参加
- ・緊急テーマ、重要テーマに対する意見交換、アクション立案
- ・MLは250人以上参加

#### 情報発信(ウェブサイト、メールニュースなど)

- ・重要テーマに関する情報発信

#### ブックレット編集

- ・Vol.5(避難の権利)ほか

#### 市民アクション

- ・自治体への働きかけ
- ・イベント等出展、企画など

# 2013年度の原発・エネルギー問題における課題

## 1. 政府の原発・エネルギー政策揺り戻しへの対応

- ・「原発ゼロ方針(革新的エネルギー環境・戦略)」の白紙撤回
- ・2012年の「国民的議論」の無視
- ・市民参加の非常に限定された旧来のプロセス(総合資源エネルギー調査会・基本政策分科会)
- ・原子力市民委員会との連携・協働

## 2. 「原発は必要？」という若者への発信 ～原発ゼロノミクス・キャンペーン

- ・原発ゼロノミクス
- ・日本はすでに「原発ゼロ」の状態である事実
- ・市民運動間の連携、ひろがり

## 1. 政府の原発・エネルギー政策揺り戻しへの対応

- ・ 声明「原子力・エネルギー政策『国民的議論』無視はゆるされない」(4/9)
- ・ 「電気事業法の一部を改正する法律案」への要望書提出(5/20)
- ・ 院内集会「どうなる電気事業法改正」(6/20)
- ・ 参議院選挙に向けての声明(7/17)
- ・ 戦略会合開催(8/11)
- ・ 「**原発ゼロ社会への道**—新しい公論形成のための中間報告」意見交換会(東京)(10/22)
- ・ シンポジウム「エネルギー基本計画見直し—いま問われる民意の反映」(11/13)
- ・ 声明「**原発ゼロと温暖化対策をトレードオフにしてはならない**」発表(11/15)
- ・ エネルギー基本計画・**パブコメアクション**(12/16～14/1/6)
- ・ 合同記者会見「エネルギー基本計画見直しの**不当プロセスと内容を問う**」(12/18)
- ・ 院内集会「**原発回帰でいいの？！エネルギー基本計画に各界から異論**」(14/2/21)



## 【2/21】原発回帰でいいの?! エネルギー基本計画に各界から異論

- eシフト、原子力市民委員会、国会エネルギー調査会、自民党エネルギー政策議員連盟、消費者団体から意見表明



### 2. なぜ原発ゼロノミクス?

原発は  
不良債  
権

原発は  
高コスト

世界は  
新しい  
方向へ

変化は  
地域で  
始まって  
いる

安倍政権のエネルギー政策:

- 原発ゼロ方針を「ゼロベースで見直す」
- エネルギー安全保障・エネルギー自給率
- 原発は安い      ● 温暖化対策のため
- アジアを中心に原発推進

# 原発ゼロノミクス・キャンペーン

- ・原発ゼロノミクス・シンポジウム「**脱原発のコストと経済性**」(4/16)
- ・「電気事業法の一部を改正する法律案」への要望書提出(5/20)
- ・原発ゼロノミクス・シンポジウム「東電解体と賠償問題」(5/23)
- ・**原発ゼロノミクスナイト**・前編(6/18)
- ・ゼロノミクマ記者会見(6/19)
- ・若者会合「ゼロクマカフェ」開始(6/27)
- ・京都にてイベント参加、アピール(6/28-29)
- ・ブックレットvol.4「**原発ゼロノミクス 脱原発社会のグランドデザイン**」刊行(7/10)
- ・**原発ゼロノミクスナイト**・後編(7/18)
- ・福島第一原発・汚染水問題に関する国際アクション(2013年8月)
- ・原発ゼロノミクス「**改めて考える原発のコスト**」金子勝さん講演会(9/10)
- ・原発ゼロノミクス in **京都**「再生可能エネルギー普及への道を切りひらこう！」(10/27)
- ・シンポジウム「**どう計算しても原発は高い**～地域から始める原発ゼロノミクス」開催(11/16)
- ・都知事選候補者に原発・エネルギー政策を聞きました(14/1/26)
- ・「脱原発・自然エネルギー推進自治体Map」を公開(14/2/21)

## 経済学者や経営者(原発ゼロノミスト)との連携

明日香 壽川(東北大学 東北アジア研究センター教授)

飯田 哲也(環境エネルギー政策研究所長)

大島 堅一(立命館大学国際関係学部教授)

金子 勝(慶應義塾大学経済学部教授)

寺西 俊一(一橋大学大学院経済学研究科教授)

朴 勝俊(関西学院大学総合政策学部准教授)

藤田 和芳(大地を守る会代表)

三上 元(静岡県湖西市 市長)

水野 誠一(株式会社インスティテュート・オブ・マーケティング・アーキテクチュア社長)

諸富 徹(京都大学大学院経済学研究科教授)

除本 理史(大阪市立大学大学院教授)

吉原 毅(城南信用金庫理事長)



# シンポジウム・セミナーの開催

原発の経済性についてわかりやすく伝えるシンポジウムの企画・実施

- 脱原発と地域の経済
- 再稼働と避難問題など



**11/16 ショートシンポジウム どう計算しても原発は高い**  
 ～地域から始める原発ゼロノミクス～

「原発ゼロノミクスとは」@シフト  
 三上元氏 (静岡県市長・脱原発をめぐり首長会議)

「経営者として考える原発ゼロノミクス」  
 吉原毅氏 (城南信用金庫理事長)

「どう計算しても原発は高い」  
 三上元氏 (静岡県湖西市市長・脱原発をめぐり首長会議 世話人)

コーディネーター: 上原公子氏 (脱原発をめぐり首長会議 事務局局長)

地域から始める原発ゼロノミクス～取組み紹介  
 こいだらソーラー (小浜町) ・ 心〜ソーラー (沼津市)  
 みんが発電 (三島市) ・ 学生団体の取組み (一橋大学、関西基督教大学)

2013年11月16日(土) 14:00～16:30 (開場 13:30)  
 会場: 武蔵野公会堂 ホール (定員 350名)  
 吉祥寺駅南口から徒歩2分

参加費: 1,000円、学生は500円  
 お申込先: シフトウェブサイト (<http://se-shift.org>) よりお申し込み下さい。(当日参加可)  
 もし(は)お名前、人数、ご連絡先をFAXでお送り下さい。電話: 03-6907-2119 (FAX: Japan)  
 主催: シフト (事務局・新しいエネルギー政策を実現する会)

原発を止めると経済に負担が、といわれますが、本当にそうでしょうか？  
 パワコエドコスト、使用済み核燃料や事故時の廃炉コスト、事故賠償費用などを考慮すれば、原発のコストはkWhあたり100円以上にもなります。再稼働コストで湖西市長の三上元氏は、それを計算して可成り減りました。また経営者の視点から、原発、そして原発のない社会をどう考えるか、城南信用金庫理事長の吉原毅氏が語ります。「原発ゼロノミクス」は、原発を維持するための経済システムからの脱却をめざす新しい動きです。国の政策が原発推進に長らくつとめるなか、すでに各地で、市民や地域の企業、自治体などが主体となって、多額のプロジェクトが起っています。大規模発電機から、小規模分散型の地域エネルギーへ世界で急進に進もうとしているパラダイム転換を、地域の視点から考えます。

# ツールの制作・配布

- 2014年1月に湖西市市長・三上元氏のちらしをもとに作成。
- 約3万枚配布

**東京は、すでに原発ゼロ** 2012年 3月末から! 2回の夏と2回の冬を原発なしで乗り切りました。

**どう計算しても 原発は高い!**

脱原発をめぐり 首長会議 世話人 三上元氏

現在、原発の主力は火力です。このコストは約100円/kWhです。それを家庭には20円/kWhで、工場にはそれより大幅に安く売っています。

事故の後継賠償に加入することを義務づけたら、東海村と浜岡は、戻って来なくて済みます。こんな返金額なのでしたら、

全国でも原発ゼロ! 知ってた?

ゼロノミクス (脱原発のゆるキャラ?)

静岡県湖西市市長 三上元氏が 2013年春に作成したちらしです。

**A 直轄の発電コスト**  
 ● 燃料費  
 ● 燃料・ウラン・費  
 ● 燃料・燃料費  
 ● 燃料・燃料費  
 ● 燃料・燃料費

**B 研究費・安全点検費**  
 ● 原子力研究開発機構へ  
 ● 原子力安全委員会へ  
 ● 原子力安全審議会へ  
 ● その他、原発関連の研究へ

**C 運送料 (危険手当)**  
 ● 原発の存在する自治体への交付金 (県・市町村別)  
 ● 自治体へ支払う林燃料税  
 ● 2011年には年間1600億円も支出しています

**D 六ヶ所村コスト (ウラニウムコスト)**  
 ● 六ヶ所村の高純度ウラン濃縮費 ● 高純度燃料 (もんじゅ) 費  
 ● 使用済燃料の中間貯蔵 ● 放射性廃棄物処理  
 ● 高レベル放射性廃棄物処理費 ● MOX燃料加工費 ● 廃炉物の輸送費

**E 10万年の保管料 (100億円/年)**  
 原発の存在する市町村へ年間1600億円 (2011年) 追加料 (危険手当) を支払っている日本です。最終処分場につけて、1ヶ所10億円/年で10ヶ所の自治体を見つけて、1ヶ所100億円に設定すると、  
 100億円×10ヶ所＝1,000億円  
 1,000億円÷50年＝20億円/年  
 20億円×40年＝800億円/年  
 5000億円÷61.32億円/年＝82億円/kWh

**F 事故時の廃炉コスト**  
 事故を起こした自治体は、事故で発生する廃炉コストを比べるべきではないコストになります。福島原発は、汚染水の増加から止められず、事故が深刻化しています。チェルノブイリの場合は25年間に費やした19億円の場合と同額と仮定すると、  
 東海村 100年に1回事故が発生すると、19億円×100年＝1900億円  
 1900億円÷380億円/年＝5.0億円/kWh  
 浜岡 100年に1回事故が発生すると、19億円×100年＝1900億円  
 1900億円÷380億円/年＝5.0億円/kWh

**G 事故賠償保険料 (原発より高くなる)**  
 ● 東海村 ● 浜岡 ● 賠償額を元と、仮定して6.75%と仮定する。  
 1.土地を買い上げるならば (17.77円/kWh) (1.5%増)  
 東海村から30km以内の土地は約1000km<sup>2</sup>、  
 1000km<sup>2</sup>×2000円/坪×1.14＝2.28億円  
 2.新への買物を元と仮定して (1.5%増)  
 1,000坪/人×100人＝100,000坪  
 100,000坪×100円/坪＝1億円  
 3.設備を元とする見直し  
 300万円/人×100人＝3億円  
 100万円/人×100人＝1億円

# キャラクターの活用

脱原発のゆるキャラ: ゼロノミクマ

⇒子どもやその親、若者も含め、幅広い層に受け入れられやすい

脱原発、自然エネルギー、被ばくから子どもを守る、  
再稼働など、テーマ横断的に、  
全国の団体やイベントに出張。



<http://zeronomikuma.com>



# eシフトブックレット

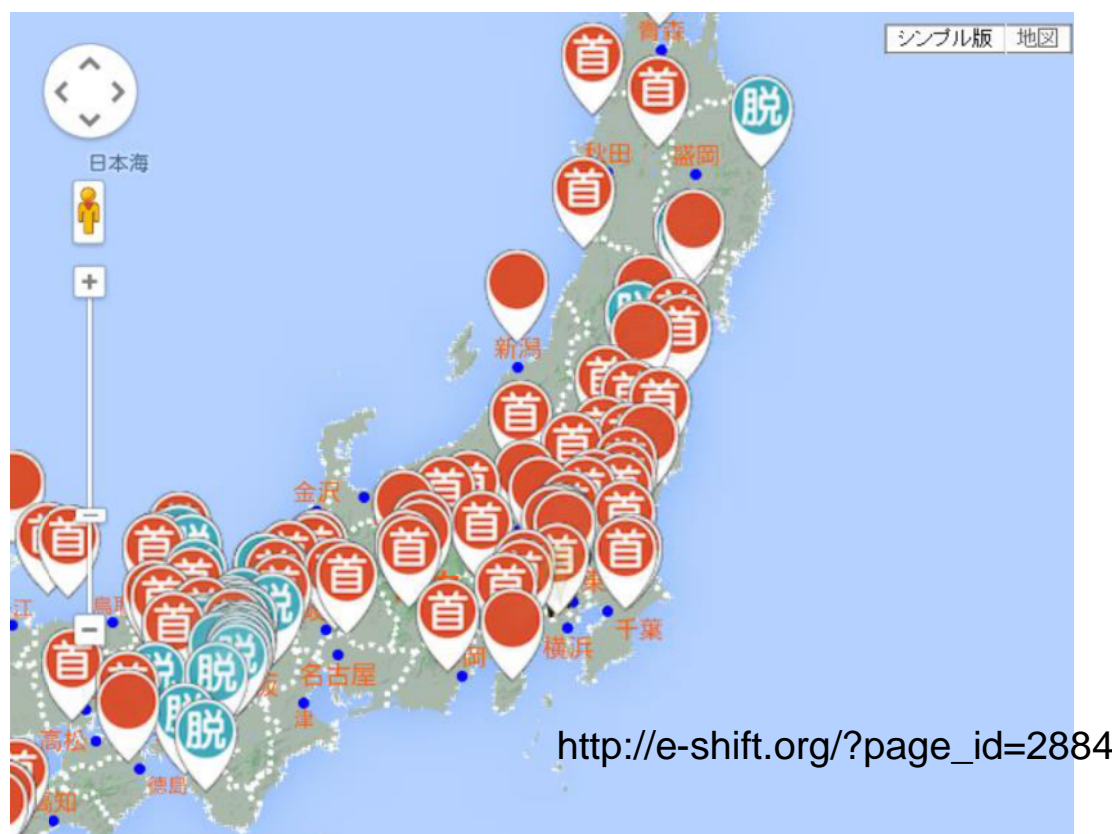
- Vol.1 「原発を再稼働をさせてはいけない4つの理由」  
<http://e-shift.org/?p=1605>
- Vol.2 「脱原発と自然エネルギー社会のための発送電分離」  
<http://e-shift.org/?p=2310>
- Vol.3 「日本経済再生のための東電解体」  
<http://e-shift.org/?p=2564>
- Vol.4 「原発ゼロノミクス～脱原発社会のグランドデザイン」  
<http://e-shift.org/?p=2722>
- Vol.5 「原発事故子ども被災者支援法と避難の権利」  
<http://e-shift.org/?p=2981>





## ⇒脱原発・自然エネルギー自治体マップ

eシフト 市民アクションチームで作成、今後情報を追加。



## 2013年度の成果

- エネルギー基本計画に対するパブコメ1万9000件、うち脱原発を支持する意見多数
- 原子力市民委員会との連携・共同アクション
- 脱原発・エネルギーシフト自治体マップの公開
- 原発ゼロノミクス・シンポジウムに各100～200人の来場
- ゼロノミクマによる幅広い層の共感獲得
- ゼロノミクマによる脱原発運動のエンパワーメント
- 脱原発フォーラム(2014年4月)に来場800人以上

# 2014年度に向けて

- **研究者、自治体等とのタイムリーな連携・発信**  
原発のコスト・実態の可視化など
- **団体やネットワークの枠をこえた緊急対応**  
緊急課題への対応  
広く協力が必要なパブコメなどへの対応  
原子力市民委員会等との連携
- **団体やネットワークの枠をこえた連携の促進**  
原発のコスト等についての情報発信  
キャラクター「ゼロノミクマ」による幅広い発信